

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 ー分析から見てきた成果・課題と今後の取組についてー

区 名	浪速区
学 校 名	大阪市立栄小学校
学校長名	岸本 昌悟

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立栄小学校では、第6学年 29名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語では、学習指導要領の内容「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」「(3)我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率が全国を上回ったが、「(2)情報の扱い方に関する事項」「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」については全国平均を下回った。平均無回答率については、全国平均を下回った。全国平均正答率の差から、「A話すこと・聞くこと」の問題解決に課題がある。

算数では、学習指導要領のA～Dの4領域すべてで全国平均正答率を下回った。平均無回答率についても大阪市・全国平均を上回っているため、粘り強く課題に取り組む力の育成が必要である。

児童質問紙においては、自己肯定感に関わる質問について、肯定的な回答の割合は全国平均をやや下回っている結果となった。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

「話し言葉と書き言葉との違いに気付く」「資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように工夫する」設問2や設問3においては、全国平均との差がほとんどない。一方で「目的や意図に応じて伝えあったり、内容を検討したりする」設問1や設問4では、全国平均との差が大きい。これらの結果から、児童が自ら進んで考える「主体的な学び」については一定の成果が見られるが、考えを共有して協働的に学ぶ「対話的な学び」については、課題が見られる。ICT機器や協働学習支援ツールの活用を図り、引き続き主体的・対話的で深い学びの実現をめざして、取組を継続していく必要がある。

〔算数〕

知識・技能を問う設問よりも、思考・判断・表現を問う設問において、全国平均との差が大きかった。本校が独自に推進するザクザクタイムの成果として、基礎的・基本的な知識が身につけてきている。しかし「直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積」を求める設問や、「折れ線グラフから読み取ったことを記述する」設問では、無回答率が2割強に上った。問題を解決する力だけでなく、解決方法を様々に表現し合う力を育成することが大切である。

質問調査より

自己肯定感に関する質問「自分には、よいところがあると思いますか」や「将来の夢や目標を持っていますか」に肯定的に答える児童の割合は80%弱で、全国より低くなっている。一方で「人が困っているときは、進んで助けていますか」や「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では、90%以上の児童が肯定的に回答し、全国を上回っている。本校の推進する人権教育や、SDGsの視点と関連づける取組の成果であると考えられる。また、たてわり班活動や異学年交流等の取組も積極的に推進している。地域との連携を図った教科・領域の学習について横断的に取り組み、カリキュラム・マネジメントも進めている。今後も継続的に取り組むことで、自己肯定感の向上に努めていく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

◆国語「A話すこと・聞くこと」、算数「数と計算」のように基礎的・基本的な知識の定着について、各学年の実態に応じて少人数指導や課題別指導等の学習形態の工夫、教科担任制の導入を図り、系統立てた継続的な取組を行う。加えて、ザクザクタイムや読書タイムの充実を図り、放課後学習の時間を適切に活用することで、学習内容がよりいっそう定着するように、取り組んでいく。

◆「自分の考えを持ち、友だちの考えも大切にできる子どもの育成」を研究主題とし、今年度より国語科の研究を進めている。物語文の読解に前に教材の分析を行い、作品のよさをとらえ、子どもたちに付けたい力を明確化しながら、指導法の工夫を図っていく。「子どもたちが考えたいくなる発問」や、対話の場の設定をとおして、言葉の力を身につけていくようにする。また1人1台端末について、ICT機器や協働学習支援ツールの活用も図り、主体的・対話的で深い学びとなるように、授業改善を継続していくことが大切である。

児童質問より

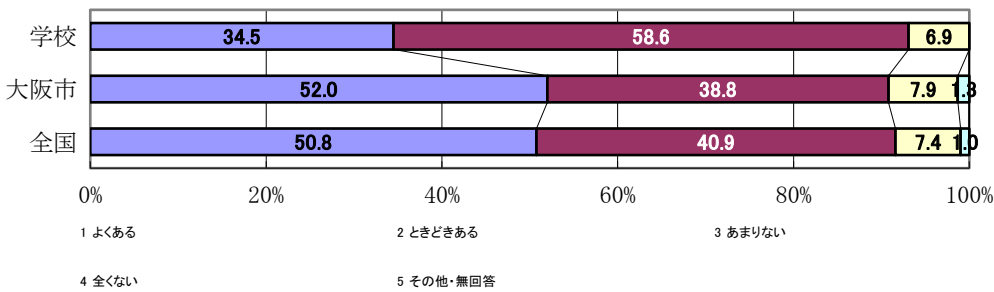
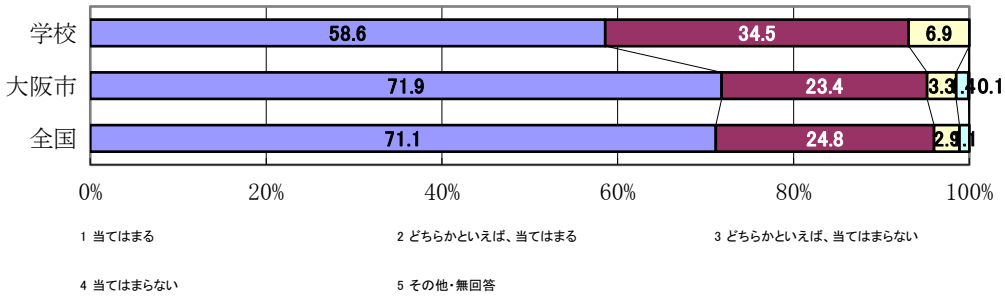
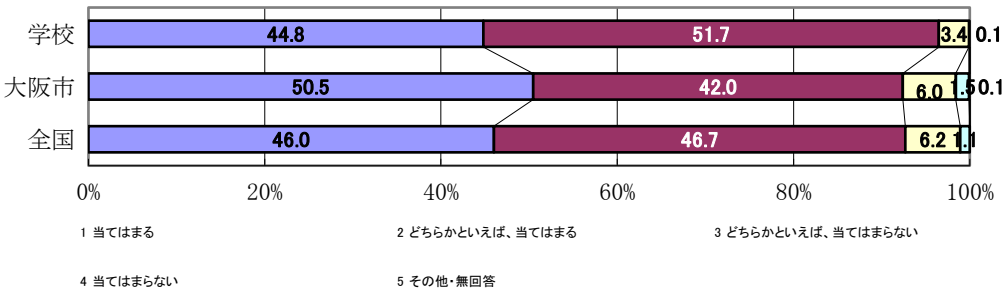
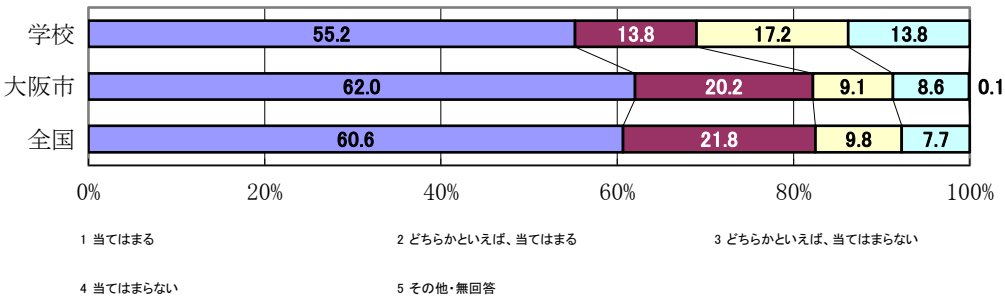
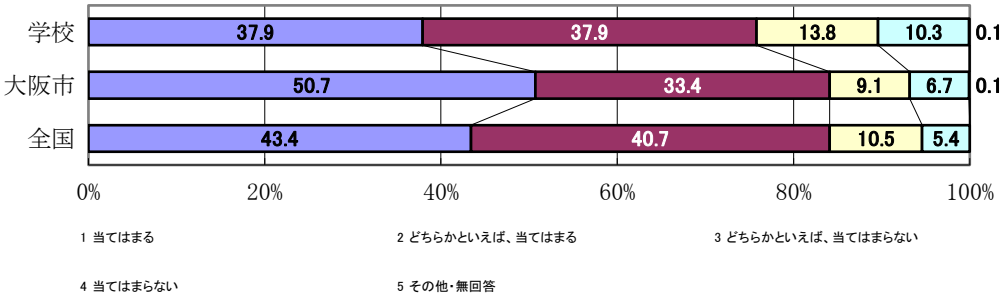
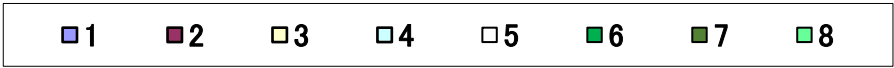
質問番号
質問事項
9
自分には、よいところがあると思いますか

11
将来の夢や目標を持っていますか

12
人が困っているときは、進んで助けていますか

15
人の役に立つ人間になりたいと思いますか

19
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

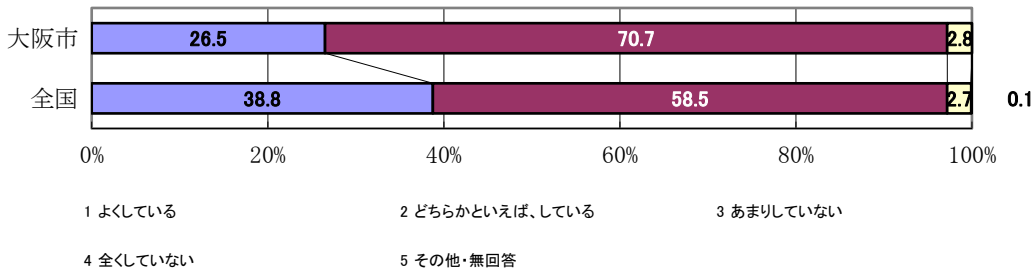
質問番号

質問事項

12

指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか

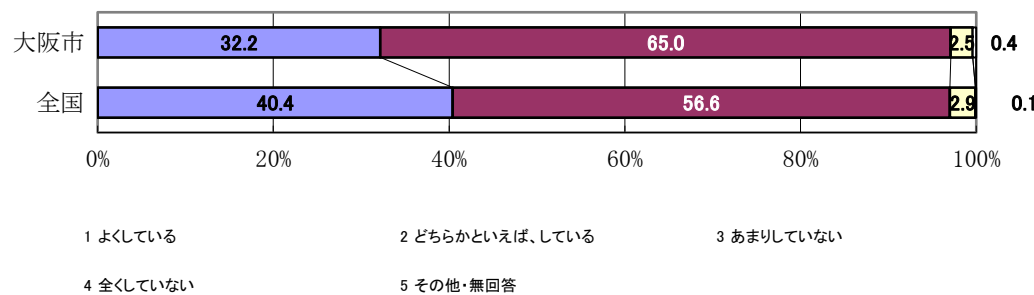
学校 「よくしている」を選択



13

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

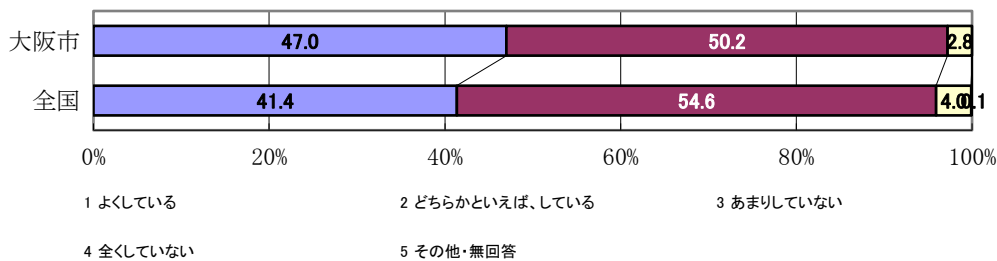
学校 「よくしている」を選択



15

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

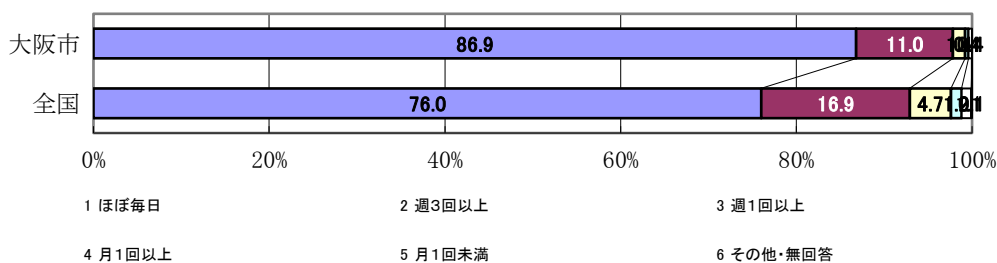
学校 「よくしている」を選択



53

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



学校 「」を選択

